

核武装に反対するための理論武装を

この本は、皆さん、日本はかくして米国にも日本国民にも隠して核武装をしてきているよ、核武装推進・容認議員もこんなに増えてきているよ、軍用プルトニウムを溜め込んでいるよ、だから〇七年六月に発足した「核開発に反対する会」とともに「軍事はもちろん、一切の原子力に反対」しようよ、そして「もんじゅ」運転再開を止める請願署名を集めてください、と訴える本だ。

「正月早々こんな小難しい本はしんどい」と読み進めると、中味がなかなか面白くとても為になる。

例えば、「アメリカ力は原爆投下のために戦争を引き延ばしたのである」ということ。天皇裕仁が国体護持のためと称して身の安全を確認するまで降伏せず、そのために沖縄戦で多数の犠牲者を出し、全国各都市の空爆、そして原爆投下と、国民の被害を増大させたことは衆知。一方、アメリカ政府は、ユダヤ系の科学者の対ドイツのための原爆開発という意向とは異なって、最初から日本で使用するつもりでいて、一九四五年の三月頃から原爆完成まで日本に戦争を続けさせるために、日本の戦争能力を残す方針で攻撃していた。そして、ウラン原爆を広島に、プルトニウム原爆を長崎に落とした。さすが、先住民族「インディアン」に対する殲滅戦争を伴って「建国」されたアメリカ合州国。

本題はもちろん、戦後日本の核武装への取り組みについて、藤田祐幸さんが「戦後日本の核政策史」を伝える。五五年には国民の三人に一人が原水爆禁止の署名に賛同した(署名数三三三三万)ほど国民の核への反対意識が強かった。にもかかわらず、五四年に日本学術会議の「原子力の研究と利用に關し公開、民主、自主の原則を要求する声明」採択、五五年の原子力基本法の成立、原子力委員会の発足、五六年の科学技術庁の開庁と突き進み、原子

メディア紹介

榎田敦、藤田祐幸、井上澄夫、山崎久隆、中島哲演+核開発に反対する会 著

『隠して核武装する日本』

木村雅夫



力産業会議の発足で、戦前の財閥が原子力によって完全に蘇った。岸信介首相時の「核武装合憲論」は政府の統一見解とされ、現在もなお堅持されている。その中で非核三原則、そして有名無実化している「核持ち込ませず」……。テポドンをきっかけに「核武装論議の解禁」が起こり、今や自民党国会議員九〇人が「核武装の検討を容認」し、ミサイル防衛システム配備が始まる日本。核兵器級のプルトニウムを生み出す「もんじゅ」。

戦中に原爆開発に係った日本の科学者たちが過去を封印したそつだ。「他の新しい兵器を作り出したい」という欲求を我々科学者は抑えることは出来ない」という米科学者。そつえば、既に四〇年近く前であるが、大学の物理の教師が「僕も作ろうと思えば核爆弾を作れる」と自慢げに話していた。

科学技術なんてくそ食らえだ、医療にだけ使えば良い。世界の優秀な頭脳は自然科学でなく社会科学に投入して、どついたら戦争をしないうで飢えないで人権を守って人々が共に生きていける世界を作れるか、そんな教育・研究を世界中で追及するべきだ。と私は日頃考えている。この本でも、そのことを確信した。そつは言っても我々も科学技術の学習が必要だ。核武装を防ぐための理論武装のために是非一読を。

(きむら・まさお/反安保美)

発行(株)影書房/B6判/一九〇ページ/定価 一五〇〇円+税
問い合わせ先:

核開発に反対する会(電話:03 32661 1128 午前)
たんぼほ舎(電話:03 32338 9035/

FAX:03 32338 0707)